

大腸がん 定期的に検診

大腸がんは、男性が12人に1人、女性が15人に1人の割合でかかり、この30年でおおよそ5倍に増えている。食生活の欧米化が原因の一つとされる。松本市の相沢病院が開く市民のための医療・介護・福祉講座「増えている大腸がん 検診を受けましょう」で聞いた。

同病院内視鏡センターの五十嵐享センター長が講師となった。

男性患者は女性の2倍

がんの発生部位別死亡者数をみると、大腸は女性では最も多い部

位で、男性でも肺、胃に次いで多い。かかる人数は、男性は女性の2倍だが、男女とも40歳以降増える。食生活の欧米化や飲酒、肥満、運動不足などが原因の一つと考えられている。

早期の腫瘍内視鏡で治療

がんのでき方は二通りで、大腸ポリープ（良性腫瘍）から徐々にがん化する場合と、粘膜から直接発生する場合があるが、ポリープからの方が多い。ポリープが1センチ以上になると、良性でも一部が

がん化しやすくなる。早期に発見すれば、外科手術ではなく内視鏡でポリープを切除できる。ポリープは自然消滅はしないとされる。進行すると手術治療の後、抗がん剤や放射線の治療も行うことになる。

発生初期は自覚症状なし

大腸がんの症状にはいくつかあるが、表、初期は無症状のことが多いので、自覚しにくい。

そこで症状がなくても、大腸がんが増え始める40歳を超えたら検

査を受けることが大切だ。検診で便潜血反応性の人や過去にポリープを指摘された人、血縁に大腸がんになった人がいる人も検査を受けるべきだ。

毎年の検診で死亡率が減少

大腸がん検診は、問診とセットで行う。便が大腸内の病変上を通ると表面に血液が付着するので、それを調べること、早期発見を目指す。1日1回で2日分、採便棒で便の表面をなぞり採便する。精密検査が必要な人は、大腸がん検診を受

けた人の5〜10%だが、実際にがんがある可能性のある人は全体の0・1〜0・15%となる。

だが、病巣があっても便の表面に血液が付着しないこともあるので、定期的にも受けることが大切だ。40歳以上の人が毎年受けた場合

「胃カメラより楽」という人も「お産くらい大変」という人もいる。腹部手術の経験者や癒着のある人、大腸が狭い人や曲がり強い人、以前の内視鏡検査で痛みが非常に強かった人などは痛みが強い傾向がある。その場合、静脈麻酔をして行うか、他の精密検査に変更する。

異常があれば必ず精密検査

大腸がん検診で精密検査が必要と指摘されても、検査が怖くて放置する人がいるが、受けた方がいい。

内視鏡検査で感じる痛さには、個人差がある。

「胃カメラより楽」という人も「お産くらい大変」という人もいる。腹部手術の経験者や癒着のある人、大腸が狭い人や曲がり強い人、以前の内視鏡検査で痛みが非常に強かった人などは痛みが強い傾向がある。その場合、静脈麻酔をして行うか、他の精密検査に変更する。

五十嵐センター長は「大腸がんは今後も増える」といい、大腸がん検診を定期的に受けること、異常があれば怖がらずに精密検査を受けることを勧めた。（白澤幸恵）

大腸がんの症状

排便

血便（血液が混じった便）がでる
下血（肛門からの出血）が起きる
便が細くなる
下痢と便秘を繰り返す
便が残っている感じがする

おなか

おなかが張っていると感じる
腹痛が起こる
おなかにしこりがある

その他

貧血が起きる
おう吐する
急に体重が落ちる

ポイント

- 大腸がんはがんの中でも多く、今後も増える
- 大腸がんは40歳以上からかかりやすい
- 早期は無症状が多い
- 早期に発見できれば予後が良い
- 大腸がん検診は早期発見に有効
- 大腸内視鏡検査はポリープやがん発見に有効で早期の治療もできる
- 大腸内視鏡検査で痛みが強い場合、麻酔がある

カラダなからなから